

1. 学校の教育目標

<p>「わが学園は、教育を通して『努力心』『誠実心』『独立心』を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする」</p> <p>本学園の建学の精神をもとに</p> <p>①社会を見つめ、自己の進路実現がかなうよう、指導支援する。</p> <p>②生徒個々の自学力が向上するよう指導支援する。</p>
--

2. 教育目標具現化の施策

<p>①本校の伝統を継承しつつ、新しい時代の教育要望に応える学校を構築する。</p> <p>②教職員全員が自己の教育力を伸ばすと共に、学校の発展を進める。</p> <p>③地域・中学校・大学・専門学校等との連携を強め、本校の存在意義や教育方針を広く浸透させる。</p> <p>④教育相談やアップルールの活動を積極的に取り組み、理解を深める。</p> <p>⑤学校安全を徹底し、安心して学校生活ができるよう環境を整える。</p>

2025年度を取組目標とその評価

		委員の評価 A
取りまとめ	取組目標	取組報告
教務	生徒一人ひとりを向上させる指導方法の工夫・改善を図る	「楽しい授業」を実施した。
		アクティブラーニングの研究と授業実践をした。
		校内研修の充実を図った。
		放課後補習により自学自習・学習習慣の定着を図った。
		I C T教育を推進するため、研究を進めた。
	教育システムの充実	英語・数学・簿記の習熟度別クラス編成を実施した。
		ユニットベースを有効活用した。
	学校行事の充実	北海道サマーキャンプや専門学校とのコラボ授業など、新しい取り組みに挑戦した1年だった。
	課題	研究授業の実施が徹底できなかった。
		非常勤講師の先生方との連携が不十分な部分があった。
今後の改善方針	「楽しい授業」やI C T教育の実践など、各教科で行っているが情報共有の機会が少ない。	
	新人研修を含め、研修計画を作成し徹底する。	
	ロイロノートのツールを参考に授業準備や内容の工夫を行う。	
	教科内での教材共有やフォーマットの統一を進め、準備負担を軽減する。	

		委員の評価 A
進路指導	進路学習の充実	生徒・保護者対象の面談を計画的に実施した。
		3年間を見通した進路指導を計画し実践した。
		進路学習ブックの見直しをした。
		東海大学付属推薦希望者への進路指導を計画的に実施した。
		教員の進路研修を行った。
	学生課就職担当・就労移行支援事業所「Iビリーブ」との連携を深めた。	
	課題	進路ブックの内容は充実してきたが、職員に浸透が図られていない。
生徒の進路先が多岐にわたるため、進路指導に時間と人手が必要である。		
今後の改善方針	研修や教員間のコミュニケーションを充実させ、指導の方向性を確認する環境を整え、生徒に適切な指導をする。	
	面談を継続的に実施し、教員、生徒、保護者にとって相談しやすい環境を作る。	
	進路ブックを用いての教員向けの進路についての研修を行い、浸透を図る	
	担任で抱え込むことはせず、卒業生の進路情報等の記録を活用し学年で協力する。	

		委員の評価 B
生徒指導	校内指導	あいさつ、言葉使いなどの基本となるマナーの定着を図った。
		安心安全に学校生活を送れるように、話し合いを設け、ルールへの定着を図った。
		公共心・道徳心を養い、お互いを尊重する心を育成した。
	校外指導	学校周辺パトロールを実施した。
		警察や周辺の学校との連携を取り、情報交換した。
		学校周辺のコンビニを巡回し、利用マナーの定着を図った。
	課題	挨拶や言葉遣いなどの基本となるマナーの指導が不十分であった。
		他の業務に時間を割かれることが多く、生徒と向き合う時間が少ない。
	今後の改善方針	挨拶をすることの重要性を指導し、日常生活の中できめ細かく指導していく。
		ビジネスマナーについて、教職員で研修を行い挨拶をする文化を育成する。
S S T等の指導や講習等を実施し、マナーやルールの定着を図る。		
職員会議、担任会などの会議において情報共有を図り、最低限の対応基準を共有する。		
	多くの巡回指導を実施することができたので、次年度も継続して行う。	

		委員の評価 A
教育相談	教育相談	教職員が連携し生徒情報を共有しながら教育相談の充実に向けた努力をした。
		教員研修を実施した。
	課題	ケースの蓄積が共有されにくく、資料も探しにくい。
		教員研修を通して多くの経験ができたので、今後も継続する。
	今後の改善方針	生徒情報の共有を継続して推進し、教員間のコミュニケーションを活発にし生徒の困り感に対する適切な指導支援を考えていく。
相談活動に関するスキル向上や教職員の連携を深めるためにも研修を行う。		
	外部機関との連携を活用し、校内負担の分散を図る。	

		委員の評価 A
保健安全	生徒の健康管理	定期健康診断の実施と、生徒の健康管理を行った。
		健康診断結果による勧告書を発行・回収した。
		時期に応じた保健情報を提供した。
		保健室の維持管理を実施した。
		保健室の適切な利用を指導した。
		清掃の計画と実施、点検を実施した。
	課題	傷害事故の把握（教科担当と担任との連携を密にする）をした。
		保健室の利用について、課題が残った。
今後の改善方針	保健室を使用したい生徒が複数いる場合の対応が難しい。	
	保健室のスペースや生徒の利用方法を見直し、より適切で利用しやすい環境づくりを進める。	
	年度初めの職員会議において、保健室の利用方法および保健安全指導部の担当内容について全職員に周知し、共通理解を図る。絆創膏などの衛生用品の保管場所が誰にでもすぐ分かるように保健室内を整備し、円滑な対応ができる体制を整える。	

	保健室の利用状況報告を継続的に実施し、実態把握と今後の改善に生かしていく。
--	---------------------------------------

		委員の評価 A
防災安全	災害時の対応	避難訓練を実施した。
		防災計画を作成（火災・地震・津波・風水害）した。
		防災備品を点検・管理・購入した。
		防災教育を推進した。
	課題	学級での授業以外で災害が発生した場合の対応について検討が必要である。
		防災担当で備品の管理・点検は行ったが、他の職員と一緒に点検を行う時間を作ることができなかった。 訓練やマニュアルが形式化し、実効性が弱まるのが危惧される。
今後の改善方策	職員全員で防災備蓄品の点検および整理を行い、内容や保管場所について全職員が把握できる体制を整える。	
	職員および生徒が適切な避難行動を身に付けられるよう、年度初めに火災や地震を想定した避難訓練を実施する。 後期の授業において避難行動の復習を行い、防災意識の定着と行動力の向上を図る。	

		委員の評価 A
施設管理	学校施設の整備	施設安全点検を実施した。
		情報関係施設管理を実施した。
	課題	破損個所や不具合のある個所等、施設についての情報共有が十分でない。
		点検業務が特定の担当者に依存しやすい
		プロジェクターとタブレットを繋ぐケーブルがときどき別の教室で使用してなくなることがあった。
	今後の改善方策	フロア図を合わせて配布し、破損個所にチェックを付けやすくする。
点検の持ち回りを検討する 使用後は元の場所に戻すことを徹底する。		

		委員の評価 A
生徒会	生徒会活動・諸行事を通じてリーダーシップの育成を図る	生徒会活動の推進、企画、実施を図った。
		執行部の指導、支援を図った。
		諸行事の指導、支援を図った。
		生徒会ブログ・新聞の編集・運営を推進した。
	課題	ペットボトルキャップ回収の報告を行う
		生徒会活動報告を定期的に行う
		成果が見えにくく、生徒の達成感につなげにくい
		生徒の自主性に差があり、活動が一部の生徒に偏りやすい
		生徒会ブログ発信のタイミングを統一する。
	今後の改善方策	JVC寄付証明書発行企業のため、証明書を発行してもらい、校内校外に報告を行う。
		地域のイベントなどには生徒会を中心に積極的に参加する。
		I階エントランスに掲示板を設置し、活動報告を行う。（またはサイネージ）
google クラスルーム（生徒会）で、googleカレンダーで予定を共有する 生徒会役員全員に仕事が渡るように、役割分担をしっかりと行う。 生徒からのアイデアを実現できるように教員と話し合いの時間を増やす。		

		委員の評価 A
特別支援教育	1人ひとりの特性に配慮した指導を行う	個別支援計画を作成した。
		個別支援計画、個人票の書式を見直した。
		生徒・保護者面談を定期的に行なった。
		保護者勉強会を企画・実施した。
		校内研修の充実を図った。
		医療機関等専門機関と連携した。
		進路について早期から就労移行支援事業所「Iビリーブ」と連携し、指導・相談を実施した。
	課題	保護者勉強会テーマを保護者にアンケートする
		個別支援計画の作成はできているが、活用が十分でなく、初任者には難しい。 教員向けの研修を充実させる
	今後の改善方策	保護者勉強会のテーマをアンケートで募集し、充実した勉強会を開催する
個別支援計画の内容の検証を行う。 特性に合った対応や合理的配慮など生徒と関わる上で必要な知識を身に付けられる研修を行う。		

		委員の評価 A
入試広報	入試広報活動の充実	学校案内、募集要項を作成した
		広報制作物を作成した。
		HPを管理した。
		学校説明会・体験入学を運営した。
		外部相談会に参加した。
		中学校訪問を実施した
	課題	業務量が時期により差があり、通常業務と重なりやすい。 LINE・Instagramの公式アカウントを持っていない。
		今後の改善方策

評価実施者 岩谷学園高等専修学校教職員
(評価期間 2025年4月1日～2026年3月1日)

* 各評価項目における評価点（「適切：4」、「ほぼ適切：3」、「やや不適切：2」、「不適切：1」）その平均値（少数点第二位を四捨五入し、小数点第一位まで表示）を以下の基準により表示した。

評価	基準
A	4.0～3.6
B	3.5～3.1
C	3.0～2.6
D	2.5以下